

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	青木 智子
論文担当者	主査 山門 亨一郎
	副査 富田 尚裕
	副査 若林 一郎
学位論文名	Prediction of development of hepatocellular carcinoma using a new scoring system involving virtual touch quantification in patients with chronic liver diseases (Virtual Touch Quantification を含む新スコアリングシステムを 用いた慢性肝疾患患者における肝細胞癌発症予測)
<p style="text-align: center;">論文審査の結果の要旨</p> <p>肝線維化の程度は肝細胞癌発症の予測因子として臨床的に広く用いられている。肝線維化診断のゴールドスタンダードは肝生検であるが、侵襲性や費用・入院の必要性などを考慮すると、非侵襲的な検査の普及が望まれている。非侵襲的な肝線維化診断法である超音波 Shear wave elastography (SWE)のうち、Virtual Touch Quantification (VTQ)は肝臓の線維化を正確に評価可能である。今回、新技術による線維化診断法を組み込んだ新しい発癌リスク評価スコアを作成し、発癌予測への有用性を検討した。本研究は、慢性肝疾患 1808 例を対象とした後向き観察研究である。発癌に寄与する因子を cox 回帰分析で解析した結果、VTQ>1.33m/s、空腹時血糖 fasting plasma glucose (FPG) ≥ 110mg/dl、性別 (男性)、年齢 ≥ 55 歳、α fetoprotein (AFP) ≥ 5.0ng/ml の 5 因子が、発癌に独立して寄与する因子であった。これらのリスク因子をいくつ持つかで発癌リスクを評価する VFMAP score (0-5 点) を考案した。肝発癌リスクについて検討すると、VFMAP score が 0-1 点の症例に対して、VFMAP score 2-3 点の症例は 17.37 倍 (95% C. I. 2.35-128.40)、4-5 点の症例は 66.82 倍の Hazard ratio (95% C. I. 9.01-495.8) を有した。さらに、VFMAP score の診断能を ROC 解析で評価すると、AUROC は 0.82 であり VTQ 単独 (AUC 0.755) よりも有意に高値であった。以上の結果から、VFMAP score は高い精度で非侵襲的に肝発癌を予測できることが示された。本研究は、臨床上有用であり学位授与に値すると判断した。</p>	